新聞　第3種郵便物認可

ペット葬儀 つけこむ手口

もっと知りたい！

埼玉県飯能市の山林で、ペットとみられる多数の犬や猫の死体が捨てられているのが見つかった事件。逮捕されたペット葬儀業者は火葬施設を持たず、飼い主から預かった死体を次々に捨てていた。どんな手口で飼い主の悲しみにつけこんでいたのか。（上田雅文、石橋昌也、藤田絢子）

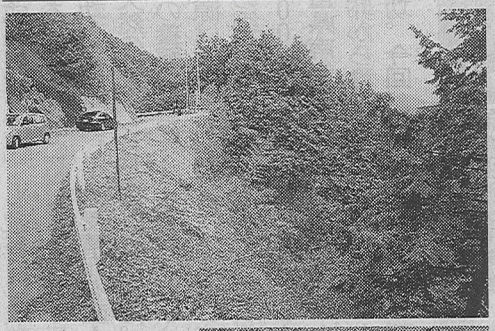
「今すぐ行きます！　24時間対応してますから」

埼玉県川口市の会社員岡本直一さん(48)は2年前、飼い猫を病気で失った。すぐに葬儀業者に依頼しようと、電話帳で探したが、午後遅い時間で、どこも対応してくれない。たどりついたのが、阿部忍容疑者(71)の「花園ペット祭典」＝同県三芳町＝だった。電話すると、2時間後にワゴン車でやってきた。

阿部容疑者は黒の礼服姿。電話帳の広告には「火葬　5000円～」「納骨無料」などと安さがアピールされていたが、最初に提示してきた費用は6万円。岡本さんが渋ると、あっさり、「なら、1万円でいいです。ただし遺骨は提携する寺の共同墓地に埋葬します」「火葬の立ち会いはできませんが、2万円追加すれば遺骨を持ってきます」。次々に条件を変えたという。

交渉がまとまると、すぐに葬儀が始まった。阿部容疑者は作務衣に着替え、線香と数珠を用意。テープで念仏が流れる中、ワゴン車内に置かれた祭壇に向かって手を合わせた。20分ほどで終わると、「サービスで戒名もつけましょう」と笑顔を見せた。

2日後。高さ15センチほどの白色陶器の骨つぼと、「ニャーさんの霊永眠」と書かれたお札を持ってきた。岡本さんは骨つぼとお札を大切に保管してきた。だが、今となっては本当に愛猫の骨なのか分からない。「とにかく、うちの子だと確認できる骨を返してほしい」



上ガードレールの下の山林から犬や猫の死体が見つかった＝飯能市　下阿部容疑者にネコの火葬を頼み、返ってきた骨つぼ＝川口市

阿部容疑者は三芳町の元町議。1983年に初当選し、その後、計3期12年を務めた。97年ごろからは町議のかたわらペット葬儀業「花園ペット祭典」を個人で始めた。

「年中無休　24時間受付」「つつがない旅路のお手伝いをさせていただきます」。タウンページに大々的に広告を載せ、火葬、納骨まで引き受けると宣伝。ただ、火葬施設は所有せず、別の業者に委託することにしていた。

だが、火葬を依頼すれば、手元に残る利益はわずか千円ほどになることも。阿部容疑者は県警の調べに「金を浮かせたかった」と話しているという。

現場の山林は自宅から約30キロ。県警は8日も捜索し、これまでの約100匹に加え、新たに約80匹の死体を回収した。地元の猟師は5、6年前から死体を見ていたという。

●●●

もし、ペットを失ったら、どうすればいいのか。

方法の一つは、自治体に依頼することだ。手数料は千～2千円程度で、無料の自治体もある。ペット専用焼却炉を所有する自治体もある。しかし、多くは「一般廃棄物」としてごみと一緒に焼却されてしまう。飼い主にとって、耐えきれない対応だ。

ペットブームの中、増えてきたのがペット葬儀業者だ。全国ペット葬祭業協会（横浜市、加盟50社）などによると、全国に500～600社あるとみられるという。

だが、飼い主の気持ちにつけ込む悪質業者もいる。国民生活センターに寄せられた「ペットサービス」に関する苦情や問い合わせは435件（08年度）。葬儀関係では「火葬場に同行しようとしたら、『来ないでくれ』と言われた」「葬儀の途中で値段をつり上げられた」「永代墓地で契約したのに、途中から立ち退きを迫られた」など。

関東地方のあるペット葬儀業者は「料金設定はあってないようなものだ」と打ち明ける。例えば、「七五三」方式と呼ばれる商法があるという。業者は飼い主の顔色をうかがい、火葬されたペットの前で割り切った表情を浮かべていると3万円、少し涙を浮かべていると5万円。大泣きしていると7万円までつり上げるという。このため、業者は「事前にしっかり料金見積もりや相談をするべきだ」と話している。

また、トラブルの最大の要因は、ペット葬儀に関する法的な取り決めがないことだ。環境省によると、動物を販売するには登録がいるが、火葬・埋葬業の届け出などは不要。ペットの火葬場を新設するのに許可制を取っている自治体も少ないのが現状だ。

日本ペット訪問火葬協会（東京）の藤本政光理事長は「法の整備がなく、監視が行き届かない分、法外な料金をとるなどのトラブルがあった。悪質業者を排除するため、登録制度などの法規制は必要だろう」と話す。

■ペット葬儀料金の例

	合同葬	個別葬（返骨）
小鳥、ハムスターなど	1万円	2万円
5キロ未満の小型犬、ネコ	2万円	3万円
20～35キロの大型犬	3万円	4万円

料金はおおよそ。全国ペット葬祭業協会に加盟する業者の平均的な料金。